

第58回仙台矯正管区教諭師研修福島大会（JKA競輪補助事業）

平成28年10月13日(水)～14日(木) 開催

基調講演

演題 「被收容者の視点に立った宗教教誨
を考える」

—「語り」の重要性—

講師 福島大学大学院人間発達文化研究科教授 生島 浩氏



グループ討議

討議テーマ1

「被收容者は宗教教誨に何を求めているのか」

討議テーマ2

「教諭師として被收容者の心に刻みたいこと（ことば・作法等）」

全体会（討議内容の発表）

研修の成果

今回の研修大会では、グループ討議を仙台矯正管内で初めて取り入れて実施を行った。実施した結果、討議の際にいろいろな意見が出されるなど、新しい取組みとしては良好な反応であった。また、参加した者全員が意見を述べることであり、今までの研修になかったことで、大いなる前進ができた。反省点としては、グループ討議の時間をもう少し確保する必要があったこと、成人矯正施設中心に話が進められ、少年矯正施設を担当する教諭師への配慮がやや不足していた。座長の力量不足があり、協力分担して進行を行う意義を感じた。

研修大会参加率があまり上がらなかったことから、研修大会の趣旨が各県教諭師会へ充分伝わらなかったことがうかがわれる。参加率を上げるには、事前に各県教諭師会に詳細な説明を行う必要があったと思われる。参加した教諭師の中に障害者がいることを事前に把握することができておらず、配慮に欠けた面があった。

東日本大震災の関係で11年ぶりの福島県教諭師会の研修担当であったため、準備等で手間取ったりしたが、新しい試みを取り入れるなど実りある研修会が実施できた。

研修会場



グループ討議

